

— 解説板を探して見学する明延鉱山町 —

明延鉱山

養父市大屋町の明延鉱山は明治 42 年 (1909) に錫鉱が発見され、昭和 62 年の閉山まで国内 90% 以上の錫を産出し、日本一の錫鉱山として栄えました。鉱山町の中にある解説板をまとめました。解説板を探して明延の町を見学してください。



文化財ミニパンフ

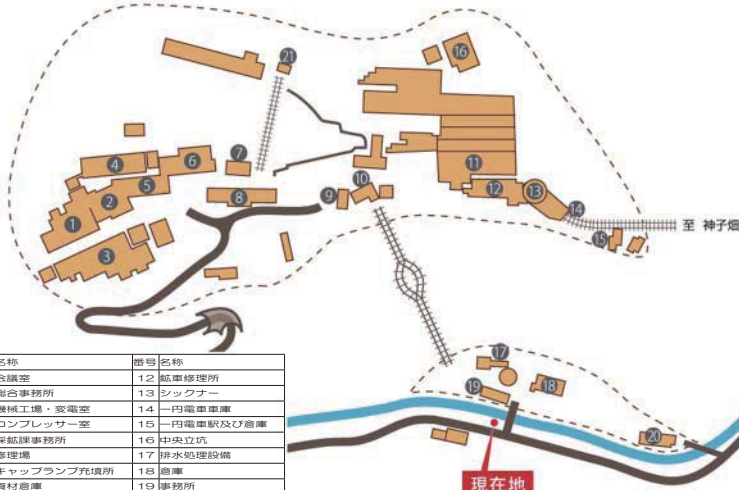
発行：養父市教育委員会社会教育課

13
ガイドマップナンバー

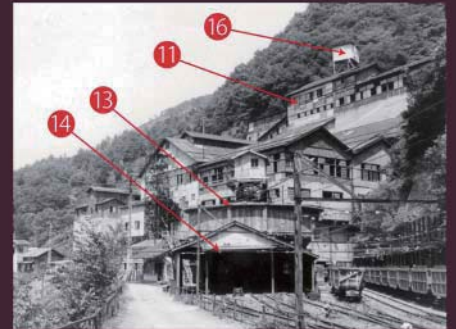
あけのべこうざん ちゅうしん ちあと
明延鉱山の中心地跡

鉱山法により立入禁止
非公開区域

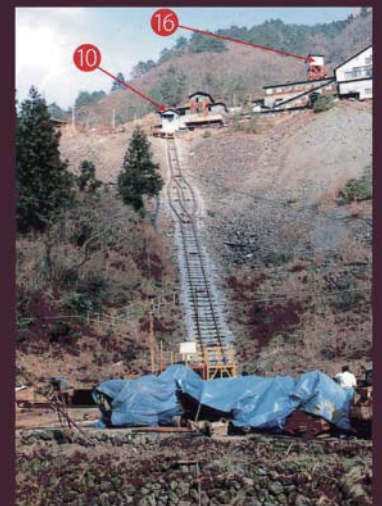
操業当時の施設配置図



番号	名称	番号	名称
1	会議室	12	鉱車修理所
2	総合事務所	13	シクナー
3	機械工場・変電室	14	一円電車車庫
4	コンプレッサー室	15	一円電車駅及び倉庫
5	採鉱課事務所	16	中央立坑
6	修理場	17	排水処理設備
7	キャップランプ充填所	18	倉庫
8	農材倉庫	19	事務所
9	危険物取り扱い所	20	木工所 (製材所)
10	インクライン巻上げ機室	21	インクライン発強り所
11	選鉱場		



- 11. 大仙選鉱場・・・集鉱された鉱石は巻き上げられ粗砕場を通り神子畑選鉱場に送鉱した。
昭和 48 年に手選を廃止、その後粗砕場に名称が変わる。
- 13. シクナー・・・液体に混じる固体粒子を泥状物として分離する装置をいう。
- 14. 一円電車車庫及び蓄電式機関車・架線式機関車の操作場
- 15. 一円電車発着場
- 16. 中央立坑 (愛称：明延のシンボルタワー)・・・各坑内 (切羽) から掘り出された鉱石が集鉱された立坑を中央立坑という。



明延鉱山の繁栄を物語る鉱山施設や建物群。明治5年、明延鉱山は生野鉱山の下で官営となり、明治22年宮内庁御料局、明治29年三菱の経営となり近代化を進めました。

ガイドマップナンバー

1

ほくせいしゃたく 北星社宅



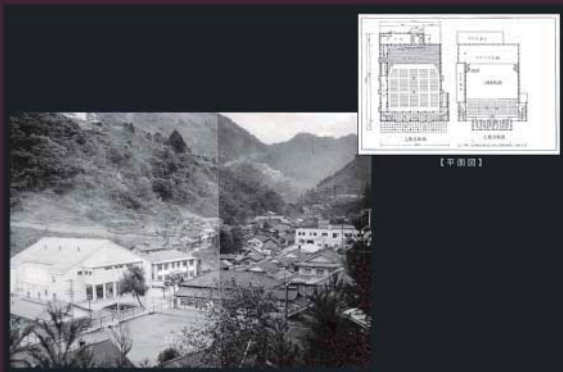
北星社宅は、昭和11年(1936)頃に建設された鉱山従業員の北星西部社宅の一部で、通称「長屋」と呼ばれています。かつて明延地区には、北星(東部・西部)・東山・旭山・観音町・坂の谷・明盛・桜ヶ丘の7地区があり、昭和11年以降次々に従業員の住宅が建設されました。また、北星西部地区には昭和28年(1953)頃に近代的な住宅としてプレコンの2階建住宅が建てられました。

鉱山の最盛期(昭和30年代)には社宅が780戸あり、4,000人以上の住民が生活をしていました。

現在残っている社宅は、市営住宅として利用されています。

2

きやうわかいかん 元協和会館



協和会館は、鉱山従業員の娯楽・集会施設として昭和6年に建設され、昭和32年(1957)10月に今の建物に建替えられました。鉄筋コンクリート造2階建、延1,122㎡の当館は、収容人員1,150人(椅子席1,036人、立見席114人)という大きな施設でした。

当時の会館には、有名な芸能人や一流の歌手が来演し、近郊からも多くの人たちが押し寄せました。会館前には開演を待つ人々で長蛇の列ができて大変賑わいました。また毎日のように最新の映画も上映されていました。

3

めいしんでんしゃ 明神電車



鉱山で産出された鉱石は、明治43年(1910)から牛車や馬車で山を越えて運ばれ、大正元年(1912)からは全長5,750mの空中索道で神子畑に搬送されていました。そして鉱山の近代化と共に昭和4年(1929)に明延～神子畑間の隧道が完成し、鉄道での輸送が開始されました。

明延の粗砕場と神子畑選鉱場を結ぶ5.75kmのほとんどはトンネルで、4本のうち最長のものは3,937mあります。鉱石運搬車に加え、昭和20年からは客車も定時運行され、駆け足をするくらいのスピードで走っていました。客車は運賃が1円であったことから「1円電車」の愛称で親しまれ、鉱山従業員の通勤だけでなく、明延の人たちの通勤や通学、買い物足として広く利用されていましたが、昭和62年(1987)3月の閉山前に廃止されました。(平成19年(2007)11月30日に近代化産業遺産に認定)

4

あけのべこうばいかい 元明延購買会



明延鉱山の最盛期には明延地区内に4,000人以上の従業員や家族が居住しており、生活に必要な身の回りの品物は、食料品から衣類、電化製品に至るまで全て購買会で揃えることができました。

また、アイスクャンディーしかなかった当時、初めて「ソフトクリーム」が販売されていました。

購買会の建物は、昭和38年(1963)当時としてはまだ珍しいプレハブパイプ作りの工法で、平屋建(一部2階造り)、722.37㎡の建物でした。

5

あけのべびょういんあと 明延病院跡



昭和30年(1955)11月に建替えられた明延病院は、鉄筋コンクリート2階建て近代的な医療設備を完備し、病床40床と結核病床20床のベッドを備えた大きな総合病院でした。当時の新聞記事は、県内でも有数の総合病院として紹介しています。

立派な設備が整った病院には、鉱山従業員やその家族だけでなく、広い地域から大勢の人たちが診察に訪れていました。

6

りょうしょうじ びんしょう 両松寺の梵鐘

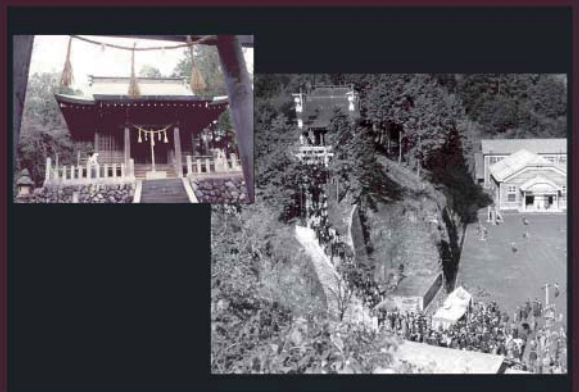


両松寺の梵鐘は、豊臣時代の文禄5年(1595)に明延産出の銀・銅の混合を使って鑄造され、明延の繁栄と縁者の冥福を祈願して、奉納されました。この梵鐘の合金の成分をはじめ、形、鑄造の技術、銘文の彫刻等は、当時の文化美術を証する重要な文化財であるといわれています。

第2次世界大戦下では金属物資が欠乏し、あらゆる金属製品が徴用される中、その例外ではなかったこの梵鐘を重要文化財として存置申請し、特別に徴用を免除されて両松寺の保管となり、現存しているものです。

7

さんじんぐうあと さんじん 山神宮跡「山神さん」



山神宮は、鉱山関係者の山の繁栄と安全を祈るため、昭和8年(1933)12月に鉱山グラウンドの西側(現あけのべ自然学校入口付近)に新設されました。その後昭和30年(1955)に明延小学校建設のため現在の場所に移設されたものですが、明延の山神宮跡地には平成4年(1992)に記念碑が建立されました。

8

めい わ りょう あと 明和寮跡



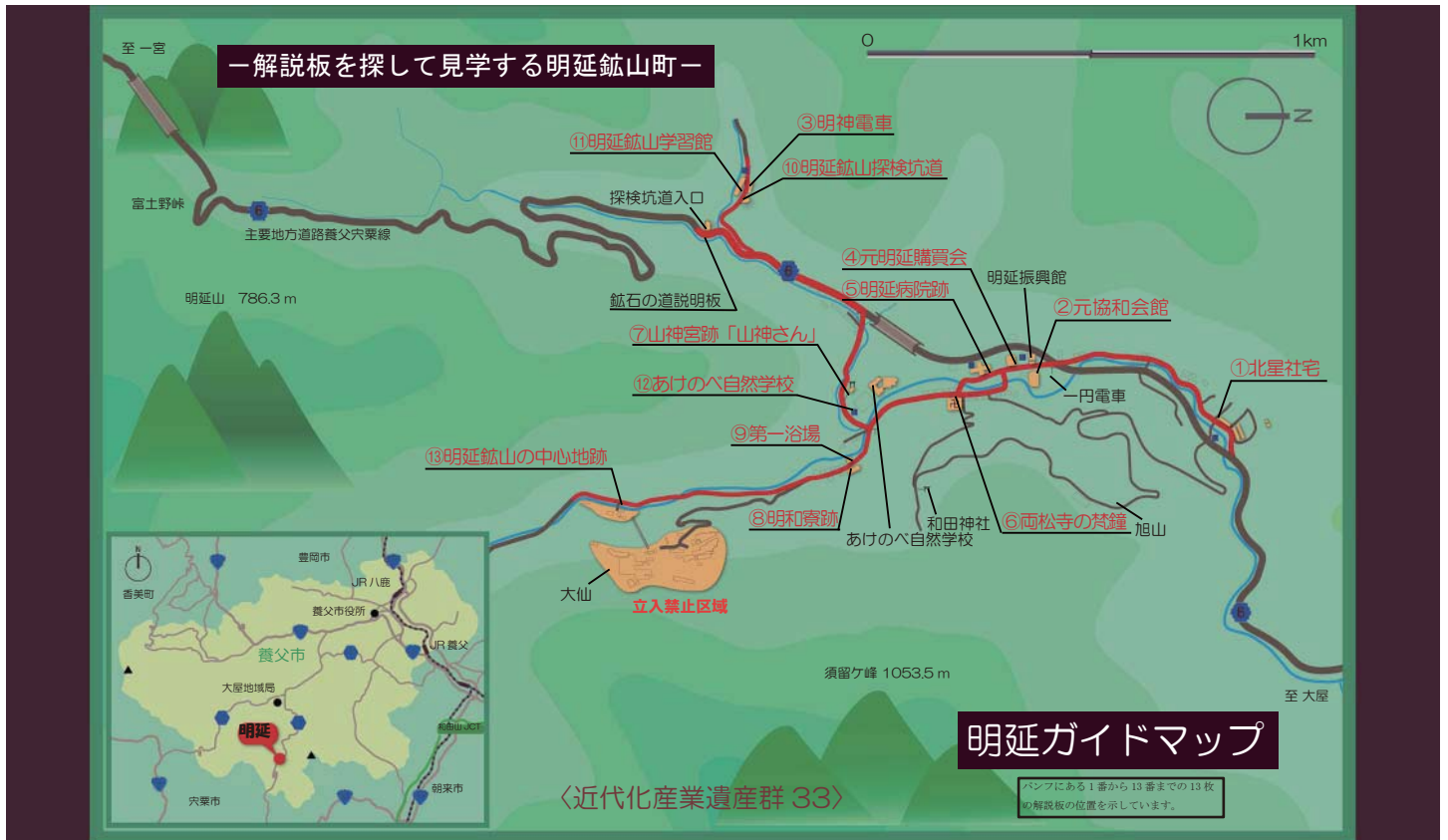
明和寮(明盛)は、鉱山に従事する従業員の独身寮として昭和24年(1949)に開設されました。明延には、その他に明善寮(旭山)、洗心寮(桜ヶ丘)、明徳寮(桜ヶ丘)がありました。

明延鉱山と「鉱石の道」

生野・神子畑・明延の3鉱山は、平成19年11月30日、経済産業省の「近代化産業遺産群33」の中の「25生野鉱山」に認定されました。この3鉱山を観光や地域づくりに活用するため、「鉱石の道」事業を進めています。

明延鉱山では、錫をなどの鉱石を採掘しました。その鉱石を神子畑選鉱場に運びました。神子畑では比重を利用して錫・銅・亜鉛などの金属を選別しました。そして錫は生野鉱山に運び製錬しました。また銅は香川県直島、亜鉛は秋田県飯島に運びました。明延は東洋一の錫鉱山、神子畑は東洋一の選鉱場です。そして生野・神子畑・明延の3鉱山は日本近代鉱山の発祥地です。

明延と神子畑は約6kmも離れた一つの鉱山です。昭和4年にはトンネルが完成し、明神電車で明延鉱山の鉱石を神子畑選鉱場に運搬しました。明延・神子畑・生野の鉱山施設は、世界的な近代化産業遺産です。



9 第一浴場

明延地区には鉱山労働者や家族の憩いの場として6カ所（北星・東山・旭山・観音町・坂の谷・明盛・桜ヶ丘）に共同浴場があり、入浴料は無料でした。現存している第一浴場は、いちばん最初に建築された共同浴場です。構造は木造平屋建、亜鉛波鉄板葺で床面積は152㎡在ります。
(平成19年(2007)11月30日に近代化産業遺産に認定)

10 明延鉱山探検坑道「世谷通洞坑」

明延鉱山の鉱床形式は脈状で鉱脈は130条板状あり、その鉱脈に沿って多くの坑道が掘られました。閉山までの坑道総延長は約550km、面的な広がりには約5k㎡あり、海面下138mまで掘り下げられています。この坑道は明延鉱業株式会社（当時）使用していたものを平成元年（1989）に、青少年の学習施設として整備したものです。坑内には閉山まで使用していた立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機など近代化鉱山の設備が多数展示されています。
(平成19年(2007)11月30日に近代化産業遺産に認定)

11 明延鉱山学習館

当施設は明延鉱山の閉山後、かつての西部探鉱課事務所を鉱山学習館として整備したものです。館内には往時の明延坑内の模型やたいへん貴重な鉱石の数々、鉱山道具、写真など数多くの鉱山資料を展示しています。また、当時の明延鉱山の作業の映像も視聴することができます。

12 あけのべ自然学校

あけのべ自然学校は平成元年（1989）5月、明延鉱山の閉山とともに閉校となった明延小学校を再活用し、子どもたちに自然体験の場を提供する目的で設立された施設です。教室を改装した校舎内には、最大225人の宿泊が可能で、付属の体育館やあけのべドームの利用と合わせ、小学校5年生の自然学校や合宿等に多く利用されています。明延鉱山を訪れる一般観光客の宿泊施設としても利用可能で、明延鉱山の情報の基地として、また、探検坑道の案内所としての拠点施設ともなっています。